令和元年度第３回　清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体 会議録

１　開催日時　令和２年１月 14 日（火）10 時から 12 時

２　開催場所　コミュニティプラザひまわり会議室１

３　出 席 者　出欠席名簿の通り

４　配布資料
- 次第
- 資料１　第２回第１層協議体会議録
- 資料２　第１層協議体設置要綱（簡易版）
- 資料３　事前情報把握シート
- 資料４　協議体の運営状況
- 資料５　社会資源一覧表　調査項目一覧
- 資料６　清瀬市高齢者の要支援、要介護状況

５　次第

（１）　開会

資料確認と欠席者の確認後、長谷川委員長より開会の挨拶あり。

また、初参加である杉田委員と長谷川職員（森田委員の代理出席）、きよせ信愛地域包括支援センターの中野職員、きよせ清雅地域包括支援センターの江原職員より自己紹介いただく。

（２）　前回振り返り

鍵和田より、資料１・２を用いて前回会議の振り返りと第１層協議体の目指す取組の確認を行う。

また、長谷川委員長より、資料６を用いて清瀬市内の高齢者の要支援・要介護の状況について説明がある。

（３）　情報共有

①　各委員からの情報発信

ア　今後行う予定のある行事

■　清瀬市シルバー人材センター
- シルバー人材センターフェア（3/8）
- シルバー人材センター就業体験　植木の剪定（1/27）
- シルバー人材センター就業体験　襖・障子の張替え（1/29）

■　西都保健生協
- 健康づくりセンター日程
- 文化祭（1/29～2/1）

■　緑蔭交流サロン
- サロン日程（1/21）

■　お茶の間サロン
　・　サロン日程（2019 年度）
■　清瀬市企画課
　・　円卓会議・地域づくりの会日程
■　清瀬市高齢支援課
　・　「介護はじめの一歩」研修

イ　最近「ちょっと困った」と感じたこと

■　福嶋委員
清瀬市シルバー人材センターでは、体験や講習の機会があることで安心して就業でき、清瀬市の課題解決につながる。しかし、仕事の依頼に対して人材が不足しており、すぐにマッチングできないケースがある。

■　小川委員
市内で高齢者を対象とした囲碁大会を開催した際、雨だと危なくて参加できないという声があった。自分の車で送迎した場合には保険の問題が心配。送迎の仕組みがあれば、参加しやすくなる人がいる。

■　佐藤委員
高齢者のみの世帯において、介護をしているうちに介護者（特に男性）が地域から孤立してしまうケースがある。近所との付き合いがない上に、家族も亡くなり、寂しい思いをしていると思われる。配食や地域食堂などで、地域との接点を作り直すことが必要。

■　杉田委員
サロンを運営している際、孤独感の深い人に対してスタッフが傾聴によって対応することや地域包括支援センターへつなぐことがある。そうした方は地域に多くいるのではないか。傾聴ボランティアによる対応も考えられる。
サロンを運営する中で、スタッフ／お客さまと役割が明確に分かれてしまうことがある。お互い様の関係で、地域で一緒にやりましょうという機運を第１層協議体として高めていくことができるといい。

＜菱沼先生コメント＞

- 個々の具体的なエピソードも重要だが、どの地域にどんな困りごとがどのくらいあるのかを把握することも重要。データでニーズ把握する視点を持っておく。
- にぎやかな場は行きづらい人もいるため、静かにすごせるような場所があってもよい。「〇〇さんが過ごせるような場」をイメージして取り組みを進めるのもいいのではないか。
- 担い手を養成する研修については、受講者と活動との接点づくりが重要。つなげたい活動について明確にしておくといいのではないか。
- 地域に関わる人同士の地域支援会議も重要。地域づくりの会や円卓会議の担当部署等、行政内の各所管や必要な人を巻き込み、一緒に

取り組みたいことや課題となっていることを話し合えるといいのではないか。

- グリーフケアは死別を経験した方に対する心のケアのこと。そうした方々の集まりを作ることや個々に手紙を書くなど、様々なアプローチ方法がある。

② 第２層圏域の取組

ア 協議体の運営状況

各生活支援 CO より、資料６を用いて報告あり。

■ 清雅包括圏域

・ 月に１回のサロンと事前打合せを実施。

・ 打合せでは、地域のことに関する話し合いやサロンの運営に関する話し合いを行っている。

■ 社協包括圏域

・ 地域づくりの会と協力し、２月に実施するイベント内で高齢者の防災に関するアンケートの取組を行う予定。

・ 高齢者の外出を支援することを目的に、ベンチやトイレの情報を掲載したマップを作成中。

■ 信愛包括圏域

・ きよせエンジン（第２層協議体）内に、分科会（ルーム）を設置。

・ ルーム１では地域で活動をする際の目印となるのぼり旗を作成、ルーム２では地域情報を共有するツールとしてカレンダーの作成を検討中。

イ 地域ケア会議の情報共有

各地域包括支援センター職員より、資料６を用いて報告あり。

■ 清雅包括圏域

・ ケアマネージャーより事例提供を受け、２事例について検討。

・ 個別課題から地域課題を探る中で、男性が社会参加をする場所（資源）の不足、坂の下の地域の移動困難、高齢者のみ世帯については配偶者死亡後のサポートが課題となっている。

■ 社協包括圏域

・ 包括職員、理学療法士、薬剤師、ケアマネージャー、第１層生活支援 CO が参加し、２事例について検討。

・ 男性が社会参加する際の資源不足、受信のための交通（移動）手段の不足が課題となっている。

・ 高齢者は休みながらであれば外出ができるという話もあり、いきいき会議（第２層協議体）で作成しているマップについても情報共有している。

■ 信愛包括圏域

・ 小地域ケア会議を２回、自立支援型地域ケア会議を１回実施。理学療法士や薬剤師、ケアマネージャー、地域住民等が参加。

- 会場は日本社会事業大学や円福寺で実施。
- 今後増えていくと予測される認知症の方の対応については、サポートがあれば出来ないことが出来てくると確認。また、きよバスや病院の送迎バスなどの手段がある一方で、バス停が遠いことや増便の要望あり。災害時、支援が必要な人をどのように把握するかも課題。

（４） 地域の実態を調査する取り組みへの協力のお願い

鍵和田より資料５を用いて説明あり。生活支援 CO が中心となり社会資源一覧表を作成中。調査項目を収集する際に問合せすることがあることを共有する。

（５） その他

- この会議中に様々な情報が飛び交い、高齢者の社会参加を考える上で地域の個人や団体に様々な課題があるとわかった。お互いに話をして心を開き、気づきあうことが重要だと思った。

（６） 閉会

次回開催は未定。決定次第、各委員へ連絡する。